

海の青色が好き

写真／文 鍵井靖章

初めてのダイビングは串本海中公園前のビーチでした。エントリー時、岩場に着いた手の周りに小さな透明のエビを見つけた時の驚きを今でも忘れていません。大袈裟かも知れませんが、その瞬間はまるで〈宇宙空間への旅の始まり〉かのように違う世界へ踏み込む高揚感を味わっていたように思います。〈小さなエビを見た〉たったその1シーンだけで僕は水面下の世界にどんどん夢中になっていく予感がしました。

その後の講習中でも僕を驚かせる生き物との出会いがありました。それは海底で偶然見つけたアオウミ

ウシです。キャンデーのような、また宝石のような不思議な容姿でした。恥かしい話、ダイビングを始める前まではウミウシの存在なんて知りませんでした。ゴツゴツとした岩の上で見つけた小さくて青い生き物は、僕にとって、それは新鮮な出会いでした。

このコラムを書く時、タイトルが「青いヴェーダ」ですから、海の青について考えていると、海の中で、最初に出会った印象的な青色はアオウミウシだったのでないかと思いついていました。

それから、たくさんの海へ行き、たくさんの海の青と

出会いました。海に潜る本数を重ねるごとに、どんどん好きになっていく色、それが青色ですよ。

海のなかには、想像以上に様々な色が転がっていて、まさに〈色の洪水〉のように僕には映ります。特に僕はお魚の持つ色にも興味があって、取材先で時間があれば、ナイトダイビングをしては寝ているお魚のひれなどのクローズアップ写真を撮影しています。実はそれらの撮影をする時は、夜ひとりで潜ることが多いです。厳密に言うとエントリーする時とエキジットする時は、バディ同士ですが、撮影中はマイペースなので一人になることがほとんどです。初めて訪れた海外の海でも、その撮影スタイルは変わりません。夜ひとりで潜る。真っ黒な海は恐怖で溢れています。後ろから何かが現れるのではないかと、というバカな想像も膨らみます。それでも、ファインダー越しに魚の美しい色やデザインが映った瞬間に、自分がどこに居るのかも忘れることができるほど夢中になれます。まるで身体が解けて水の一部分になるような感覚にとらわれます。その感覚が好きで堪らないのです。

最近、またお気に入りの海の青色を見つけました。アオノメハタという魚の体についていたドット模様の青色です。まるで宇宙に浮かぶ惑星のような、いやフロントガラスに着いた水滴のような、そんな青色に出会えました。こんなに素敵な青色に出会うのですから、やっぱり海はいいですね。

青いヴェーダ^{Photo Column}03

※「ヴェーダ」とはサンスクリット語で「知識」もしくは「科学」を意味する

